

沿岸海洋シンポジウム 変わりゆく海 沿岸海域への 温暖化の影響

2019 9/29 日曜

9:00-16:45

富山国際会議場

多目的会議室 204 号室

参加無料
申込不要
当日、直接
会場にお越し
ください。

長期変化傾向

5年移動平均値

各年の平年差

2000

1980

1960

日本海では、世界平均の3倍のスピードで表層水温が上昇し、気候の変化や魚介類の不漁など、その影響は目に見える形となっています。それは日本海の「上流域」として捉えられる東シナ海でもみられ、生態系の変化は対馬暖流によって日本海の沿岸にも影響を及ぼしています。そこで、このシンポジウムでは気象、水文、海洋物理、海洋生物、海洋化学、水産学などの分野から、最前線の研究者による話題提供で議論を進めます。

また、午後のプログラムでは開催地「富山」をクローズアップ。わずか50kmの水平距離で、高低差4000mにおよぶ環境のもと、様々な変化の情報を共有しながら、SDGsも視野に入れた環境保全を考えます。

コンビナー 張 勁(富山大学)

小松輝久(横浜商科大学)

吉江直樹(愛媛大学)

背景のグラフ

「日本海中部の海域平均海面水温(年平均)統計期間1907~2018年」

出典：気象庁ホームページ(<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>)

グラフ「海面水温の長期変化傾向(日本海中部)」(気象庁ホームページより)加工して作成

主催：日本海洋学会沿岸海洋研究会

協賛：国立大学法人富山大学、富山テレビ放送株式会社

学術プログラム(一般公開)

- 9:00 会長挨拶・趣旨説明／松野 健(九大応力研)・張 勁(富山大理)
- 9:10 東シナ海：物理的観点から／松野 健(九大応力研)
- 9:35 東シナ海：生物的観点から／石坂丞二(名大宇地研)
- 10:00 東シナ海：生態系の観点から
～低次生態系モデルによる100年後の栄養塩・プランクトン分布
／瀬藤 聡(水研機構・中央水研)
- 10:25 東アジアモンスーン・対馬暖流の変化／広瀬直毅(九大応力研)
- 10:50 休憩
- 11:00 対馬海峡から日本海への栄養塩輸送／森本昭彦(愛媛大 CMES)
- 11:25 九州から日本海沿岸の藻場の変化／小松輝久(横浜商科大)
- 11:50 日本海全海域の水産・漁獲変化／井桁庸介(水研機構・日水研)
- 12:15 温故知新：過去7000年にみられる対馬暖流の流量変動と駆動因子
／堀川恵司(富山大理)
- 12:40 休憩

クローズアップフォーラム：富山・富海・富幸(市民向け)

- 14:00 趣旨説明／張 勁(富山大理)
- 14:05 気象の観点から：安永数明(富山大理)
- 14:30 物質輸送の観点から：陸から海へ／張 勁(富山大理)
- 14:55 富山湾に流れ込む対馬暖流水と河川水／中田聡史(国立環境研)
- 15:20 富山湾のアマモ／寺内元基(NPEC)
- 15:45 富山湾の動物プランクトン／井口直樹(水研機構・日水研)
- 16:10 富山湾の漁獲変化／小塚 晃(富山水試)
- 16:35 まとめと将来展望
- 16:45 終了

1940

1920

1900